



## 〈 社会人の窓 21 〉

### 巨大ダムの耐震性 — 考えなくて良いのか? —

会長 伊藤 譲

NHKスペシャルで「半割れ」という言葉を知りました。日本列島地下の岩盤の西側半分が最初に破壊されて、その後に、東側半分が連動して破壊され、大きな地震被害をもたらすことを指しています。この言葉から私に来るべき東南海地震で心配しているのは、戦後日本の山間部に建設された土を締固めて造った数多くの巨大なロックフィルダムです。



私は高速道路技術者であった最後の1995年に兵庫県南部地震に遭遇しました。阪神高速のピルツ式橋梁をはじめとする橋脚の多くが被害を受けました。その中で、私の担当した第二神明道路では、大蔵谷インターチェンジの盛土が崩壊しました。それまで高速道路では切土部は時間経過に伴い劣化しますが、盛土部では逆に締め固まって強くなると信じられていたため、私から東京本社への報告は人命被害がないこともあり、軽く扱われました。

2009年の駿河湾沖地震による東名高速道路での盛土崩落後も、盛土の耐震の課題は橋脚補強と比較すると放置されたままです。さらに2011年東日本大震災では、高速道路の盛土構造は当初の緊急復旧に大いに役立ったと称賛されていますが、実は同地震では盛土構造の藤沼ダムが崩壊して、津波到達以前に多くの人命を奪っていました。

一方、戦後、高速道路と同じ時期に建設された数多くのロックフィルダムは、大きな地震動の洗礼を受けていません。つまり、来る東南海地震において半割れ現象等による大きな地震動を繰り返し受けた場合には、ダム本体の崩壊、土石流の発生、下流の都市での壊滅的な被害が発生しないとは誰も断言できません。

昨今の自然災害を顧みると、権威の頼りにならないことが明らかになっています。淀川愛好会は自分たちの命を守るために、従来は行政や学識に任せてきた領域に積極的に口を出してもよい頃かと思えます。

(摂南大学情報メディアセンター長、理工学部教授)

## イベント案内 (詳細は3頁へ)

### 大川クリーン活動&川で学び・つながる

日時：2023年4月30日(日) 10:00~14:30 (雨天決行)

場所：大阪ふれあいの水辺 (源八橋周辺)

### 第5回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム

#### in大阪 兼 第25回 近畿水環境交流会

#### ～ 川遊びの魅力

### 子どもたちを地域の川へいざなうには ～

日時：2023年5月20日(土) 12:30~17:00

場所：大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー2階

### 天若湖アートプロジェクト 2023

#### 「あかりがつなく記憶」

日時：2023年6月3日(土)・6月4日(日)

場所：日吉ダム(天若湖)周辺

## イベント報告

### 近畿「子どもの水辺」交流会 in ひょうご

2月18日(土)、兵庫県三田市にある「人と自然の博物館」で、近畿「子どもの水辺」交流会 in ひょうごが開催されました。会場参加は約70名でした。発表団体(個人も含む)は11で、そのうち3つがオンラインでした。どの発表も熱のこもったもので、午後には、いま「人」が「自然」にしていることや、これから「人」が「自然」のためにできることなどについて、意見交換が行われました。そのあと、特別企画のダイオウイカを徹底解説!があり、直接ダイオウイカを手で触れて、大人も子どもも大喜びでした。

来年度の交流会は、8月20日(土)に大阪ふれあいの水辺で開催される予定です。(S・K)

## 2023 年度事業計画

日程	内容	開催場所
4月30日(日)	大川クリーン活動	大阪ふれあいの水辺
5月20日(土)	琵琶湖・淀川・大阪湾 流域圏シンポジウム in 大阪	大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
6月3日(土)・ 4日(日)	天若湖アートプロジェ クト	日吉ダム周辺
10月・11月頃	秋イベント	未定
1月6日(土)	総会・新年会	未定
2月24日(土)	近畿河川フォーラム・ 淀川討論会	摂南大学 寝屋川キャン パス



ダイオウイカの説明風景

### 淀川愛好会 総会

2月25日(土) 11時から12時に摂南大学寝屋川キャンパス1号館3階都市環境工学科会議室にて、淀川愛好会の総会が開催されました。会員の方々と学生を含めた9名が参加しました。総会は会員の自己紹介から始まり、新会員の学生との新たな交流も生まれました。また、2022年度の事業報告と2023年度の事業計画についての話し合いも行われました。

2022年度は新型コロナウイルスによる規制も少しずつ緩和され、多くのイベントを開催することができました。2023年度もより多くのイベントを開催し、たくさんの方々に川の魅力を知ってもらいたいです。(N・K)



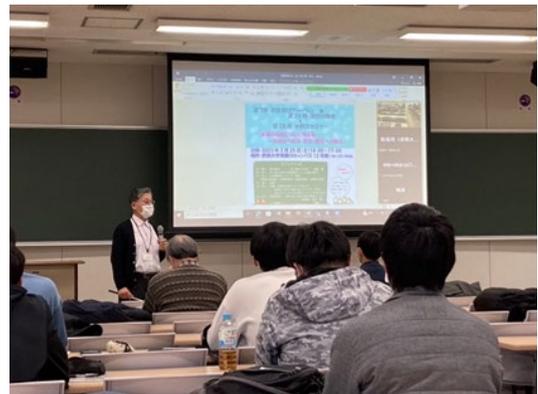
総会の様子

### 2022 年度事業報告

日程	内容	開催場所
4月末	春のイベント	中止
5月28日 (土)	琵琶湖・淀川・大阪湾 流域圏シンポジウム in 大阪	大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
6月頃	ホテル観賞会	中止
11月13日 (日)	天若湖アートプロジェ クト	日吉ダム周辺
1月7日(土)	新年会	中止
2月25日 (土)	総会・近畿河川フォー ラム・淀川討論会・水防 災セミナー	摂南大学 寝屋川キャン パス

## 第7回 近畿河川フォーラム 兼 第25回

## 淀川討論会 & 第28回 水防災セミナー



会場風景

2月25日(土) 14時から17時に摂南大学寝屋川キャンパス12号館3階1232号教室にて、近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会主催の第7回近畿河川フォーラム兼第25回淀川討論会&第28回水防災セミナーが開催されました。

河川協力団体全国協議会では、河川協力団体制度の紹介や国土強靱化の概要についてお話して頂きました。また近畿の動きとして、淀川河川公園点野地区の活動報告や新設ワンドの工事の進捗状況について、写真や動画を用いて説明して下さいました。その後、昨年6月(和歌山県)、9月(大阪府)、10月(滋賀県)、11月(京都府)に計4回行われた水害碑探訪バスツアーについての報告や摂南大学エコシビル部による活動報告も行われました。最後に「水害の伝承」をテーマに討論会が行われました。参加者皆様の河川に対する熱い想いが感じられる、非常に内容の濃い時間となりました。(N・K)

なお、3月10日付で日本水防災普及センターが河川協力

団体への指定を受けました。(S・K)

顧問 小俣 篤 氏

パネラー 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 河合典彦 氏

大和川市民ネットワーク 小松清生 氏

17:00 閉会挨拶

主催：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会

共催：摂南大学

協力：学校法人常翔学園

参加費：無料

# 今後のイベント詳細

## 大川クリーン活動&川で学び・つながる

日時：2023年4月30日(日) 10:00~14:30

場所：大阪ふれあいの水辺(源八橋周辺)

内容：清掃活動&水辺の生き物観察、Eボート乗船

参加費：無料

共催：淀川愛好会、おお川水辺クラブ

連絡先：淀川愛好会事務局



## 天若湖アートプロジェクト 2023

### 「あかりがつなく記憶」

日時：2023年6月3日(土)・6月4日(日)

場所：日吉ダム(天若湖)周辺

内容：水没家屋の湖面にソーラーライトを点灯

主催：天若湖アートプロジェクト実行委員会

参加費：無料

参加申込：不要

連絡先：淀川愛好会事務局

## 第5回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウ

### ム in大阪 兼 第25回 近畿水環境交流会

#### ～ 川遊びの魅力

#### 子どもたちを地域の川へいざなうには ～

日時：2023年5月20日(土) 12:30~17:00

場所：大阪工業大学梅田キャンパス

(OIT 梅田タワー) 2階

内容：12:30 ポスターセッション

13:30 開会あいさつ

実行委員長 澤井 健二

13:40 基調講演 「川との親しみ方」

講師：元文部科学省初等中等教育局

視学官 日置光久 氏

14:40 休憩

15:00 総合討論

話題提供：「水難事故と川あそび」

川に学ぶ体験活動協議会(RAC)



会場アクセスマップ

## 〈学生の窓 21〉

### 卒業研究と経験

杉山 柊斗

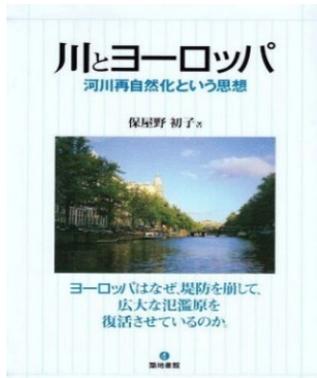


私は、淀川流域の治水をテーマに卒業研究を行いました。その内容は、遊水地の設置によって淀川流域の水位にどのような影響があるのかを一次元解析と模型実験によって検討することです。私が担当したのは一次元解析を用いた検討です。淀川本川、宇治川、木津川、桂川を複断面で表し、流量を設定した後にプログラムを使い、解析を行うことで不等流の水面形が出力されます。その結果を利用して、設定した条件における水位を比較して遊水地による水位低減の効果を検討しました。

大学に入学した当時から、水と密接に関係している職に就きたいと考えていました。そこで、石田ゼミで治水に関する研究をしていることを知り、入ることを決意しました。研究は学生が1人で進めるにはとても難しい内容でしたが、摂南大学名誉教授である澤井健二先生のご指導の下、進めることができました。この研究の過程で得たものは多く、今後の社会人生活で必ず役に立つ経験をさせていただきました。

(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ 4年生  
就職先：株式会社 日水コン)

## 書籍紹介



### 「川とヨーロッパ

#### 河川再自然化という思想」

著者：保屋野初子

発行：2003年3月15日初版

出版社：築地書館

定価：本体2400円＋税

氾濫原の再生を図ったヨーロッパの河川政策についてレポートされています。本書が語る「河川再自然化」とは、人の手によって「自然に近い川を造る」のではなく、「川本来のダイナミクスを取り戻す」という事を示しています。日本のこれからの河川政策を考える上でヒントとなりえる点があるかもしれない、そう思われる一冊となっています。(N・K)

## 会員募集・寄稿・会費納入のお願い

本会では、淀川に興味・関心のある方の「ご入会」をお待ちしています。ご入会を希望される方は、淀川愛好会事務局へ随時ご連絡下さい。「社会人の窓」への投稿も、随時募集しています。

会員の方は、今年度の年会費3000円(学生1500円)を納入して下さい。

会費は事務局にお届け下さるか、下記の口座にお振込み下さるようお願いいたします。

銀行振込口座：りそな銀行 寝屋川支店 普通預金

口座番号：2230030 口座名義 淀川愛好会

## 編集後記

2011年3月11日、東日本大震災で盛り土構造の藤沼ダム(須賀川市)が崩壊し、水害に見舞われたことを伊藤譲会長が社会人の窓で触れられています。その決壊後、藤沼ダムの底が現れて、アジサイの群生があることが発見され、「奇跡のアジサイ」と名づけられました。そして、1951年の豪雨で、同じく土堰堤の平和池ダムの決壊により大被害を受けた亀岡市にその株の一部が送られ、育てた苗を昨年須賀川市に返されたことをお聞きしました。

灌漑用ダムの平和池ダム(アースダム)は1948年に完成し、藤沼ダムは1949年に竣工しています。類似の構造である両ダムが時は異なり、洪水と地震によって決壊し崩壊したのです。

関東大震災が1923年に起こって今年で100年目に当たります。今年の淀川討論会は、災害を未来に語り継ぎ伝え遺すことが何よりも大切であることを学ぶよい機会でした。

編集長 岡崎善久(岡崎善久建築設計事務所)

年4回発行して昨年で25年が過ぎ、YODORIC NEWSが今回101号となります。

事務局では、一層の読みやすさを図るため、1年前から記事の2段組化を検討していましたが、今回、101号という節目にあたり、新たな2段組化を試みました。

皆さまの御意見をお聞かせいただくと幸いです。

(編集員一同)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8  
摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric>

E-mail：[ishida@civ.setsunan.ac.jp](mailto:ishida@civ.setsunan.ac.jp)